

編集方針

前回の統合レポートでは、新中期経営計画のスタートに合わせ、当社グループの“生きる道”（将来に向けて歩むべき方向性）とその実現に向けた取り組みについてご紹介しました。それから1年。“生きる道”の先にあるゴールはどれだけ具体化され、私たちはどこまで近づけたのか。また、そのゴールにたどり着くために、私たちが持つ強みとは何か。

こうした問いに対する答えを、ステークホルダーの皆さまに明確にお示しすることが、当社グループに今求められていると考えました。

そこで本年のレポートでは、これらの問いに応えるため、次の2点に特にこだわり制作しました。

1つ目は、経営チームとしてのリーダーシップを強く打ち出したことです。トップの想いを、コーポレートや事業を担う執行役員が受け止め、事業環境の変化のなかにある今だからこそ、チームとして経営と事業を推進していることをお示しました。

2つ目は、将来の価値の源泉となる当社グループの強みを再定義したことです。ビジネスモデルや技術の変遷と照らし合わせながら、私たちの価値の根源を深掘りし、強みをどう育ててきたか、その過程を描きました。

また、本年は、従来の統合レポートからエッセンスを凝縮し、未来志向の冊子づくりを目指しました。業績やサステナビリティのパフォーマンスに関する詳細なデータ情報は割愛していますが、その分当社グループが何を目指し、何に挑もうとしているのかを、より鮮明に伝える構成としています。

最後に、毎年忌憚のないご意見をくださる機関投資家・アナリストをはじめとするステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げます。本レポートによって、ステークホルダーの皆さまと当社グループの将来成長に向けた対話をさらに深めることができると確信しています。皆さまには、本レポートにつきましても、率直なご意見をいただけましたら幸いです。

統合レポート2025 制作チーム



統合レポート2025 発行にあたって

代表取締役会長 三和 元純



当社グループは「長期ビジョン2028」の下、「人と社会の『新たな信頼』を創造するリーディングカンパニー」の実現を目指しています。本報告書では、世界最高品質の製品群と店舗DXをシームレスにつなげていくことで、お客さまの課題解決に真正面から取り組むという、キャッシュレス化の進展をはねのける未来指向の成長ストーリーを描いております。

海外最大の市場である米国での事業が成長軌道に戻りつつあり、海外での大型買収も業績への貢献が顕在化し始めております。懸案事項であった国際会計基準(IFRS)への移行も26年3月期より開始予定です。株主還元の強化にも取り組んでおり、26年3月期及び27年3月期は総還元性向100%以上を目指します。こうした事業環境の好転や資本政策の変更についても本報告書にできるだけ詳しく記載しております。

持続的な企業価値の向上を支える経営基盤、サステナビリティ、コーポレート・ガバナンスなどの非財務領域についても今後一層の情報開示の充実を図ってまいります。

当社グループは引き続きステークホルダーの皆さまへの適時適確な情報開示と積極的対話に努めてまいります。本報告書が皆さまとの相互理解を深め、企業価値のさらなる向上を促進する一助となることを願っております。皆さまからの率直なご意見・ご要望を心よりお待ち申し上げます。

最後に、本報告書の作成プロセスが適正に実施され、記載内容が正確であることをここに確認・表明いたします。

統合レポートの位置づけ



見通しに関する特記事項

本レポートに掲載されている情報には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは本レポート作成時点の当社の判断に基づくものであり、リスクや不確定な要因を含んでいます。今後、さまざまな要因の変化によって、記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があります。あらかじめご了承ください。

〈報告対象期間〉2024年4月1日～2025年3月31日（一部に2025年4月以降の活動内容等を含む。）

〈報告対象組織〉グローリー株式会社及びその国内外の連結子会社